

コネクティビティが創る大阪のデジタルハブ ～AI時代のエコシステム形成に向けて～

2026年10月9日

エクイニクス・ジャパン株式会社 エンタープライズ営業本部

世界最大級かつ最も包括的な デジタルエコシステム

282

Data centers

77

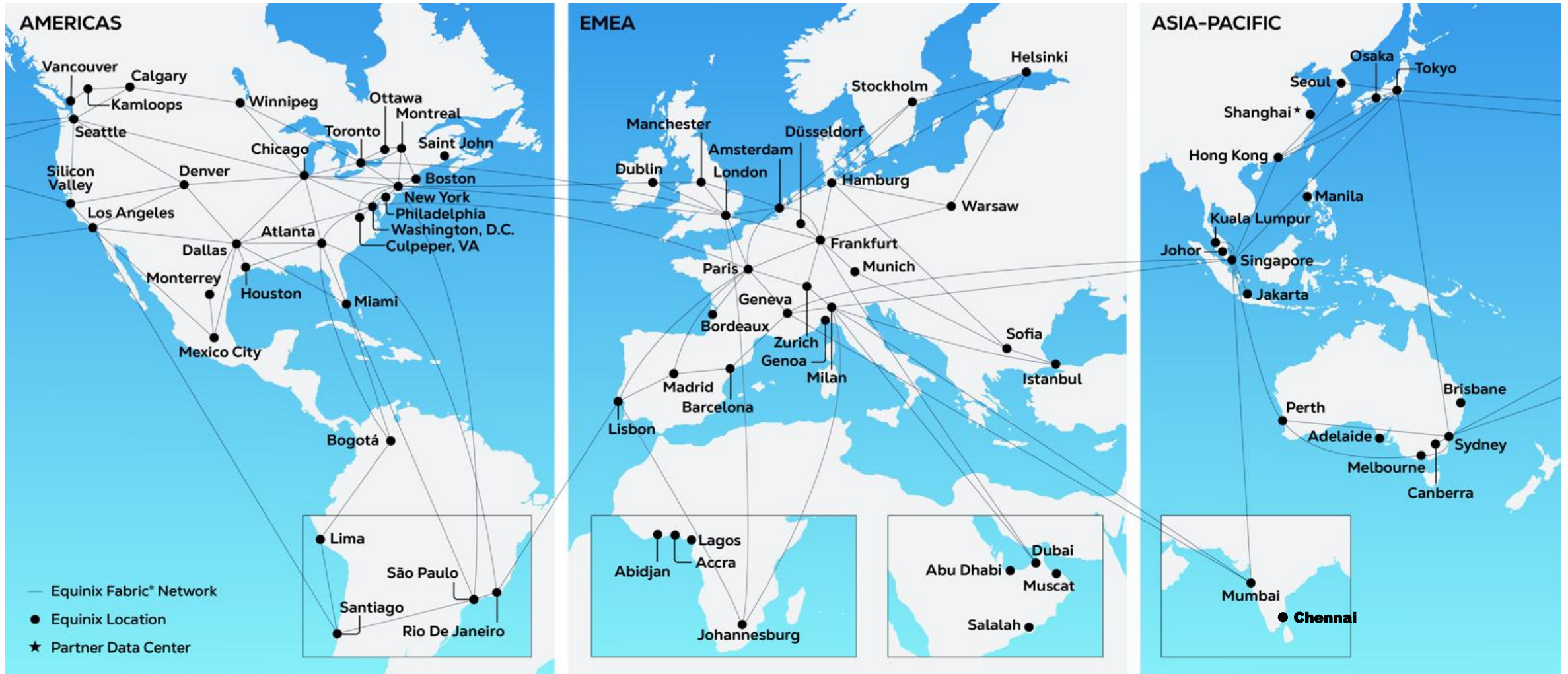
Metros

36

Countries

99.9999%+

Uptime record*



東京に14拠点、大阪に4拠点のIBX[®]とxScale[®]データセンター



TY1 (2001)



TY2 (2007)



TY3 (2011)



TY4 (2013)



TY5 (2016)



TY6 (2001)



TY7 (2006)



TY8 (2006)



TY9 (2009)



TY10 (2014)



TY11 (2019)



TY12x (2021)



TY13x (2023)



TY15 (2024)



OS1 (2013)



OS2x (2021)



OS3 (2021)

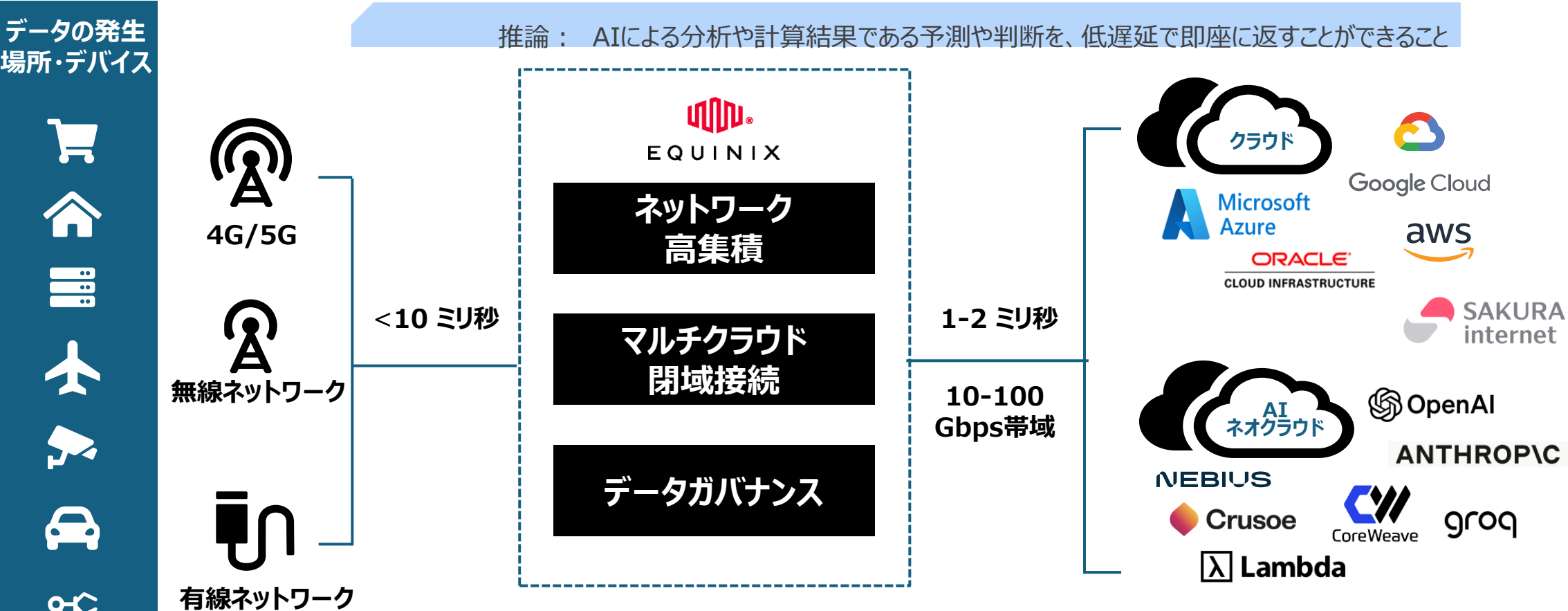


OS4x (2024)

AIが必要とするデジタルインフラ

学習： 大量のデータをAIに読み込ませるため、様々な通信方法で広帯域で接続しアップロードできること

推論： AIによる分析や計算結果である予測や判断を、低遅延で即座に返すことができること



データが大量に発生し、通信が高密度に集積され、AIサーバーやクラウドにセキュアに低遅延で接続するには、それらすべてが集まる都市型データセンターが望ましい

ワット・ビットにおけるコラボレーション： エクイニクス、NTT、さくらインターネット 3社による分散型AI基盤のPoC（概念実証）

